

お祭りニュース・2月のご案内

節分祭・^{ついな}追儺の神事

2月2日（金）午前10時から



新宮神社では、毎年あとむ幼稚園児全員が参加、古式どおりに、桃の弓から葦の矢を放って鬼を追い払う「追儺の神事(鬼やらい)」・「豆打ちの神事」が本殿前で執り行われます。



※全園児が園庭からマラソンで北側鳥居の急な坂を駆け登って拝殿前に到着します。



神前では「豆打ちの儀」終わって。境内では、赤鬼青鬼退治の豆打ちが賑やかに行われます。

十市の新宮神社

電話088-865-5123

南国市十市・十市支所・十市保育所上



もうすぐ卒園・1年生に。節分祭が最後のお神楽となります。



<次のページに神事の解説があります>

新宮神社・節分祭

ついな
(追儺の式=おにやらい)

立春前日を節分といい、この日を追儺^{ついな} とい^{ひいらぎ いわし}って、終に鯛の頭をつけて門口にさし、煎り豆を打ち撒いて邪気災厄を祓う。この日、新宮神社では古くから節分祭・追儺の神事を執り行っています。これは、宮司ら神職が深夜^{あんどん}に行燈の火明かりのもとで行って来ました。

この追儺の式を「おにやらい」ともいう。追儺の式は古く平安時代以前から宮中の年中行事として行われていたようだ。古代では12月晦日^{みそか}に天皇が紫宸殿に臨御せられて、大舎人の背の高いもの一人が方相氏^{おおとねり} となり



「弓矢の儀」



「豆打ちの儀」



【ついな】

黄金四目の仮面をつけ、黒衣朱裳^{ほこ}を着て、右手に棒、左手に盾^{たて}を持ち、後ろに王卿が続いて行く。方相氏が棒で盾を三度打つと後続の王卿等がこれに応じて桃弓に葦矢^{よし}をつがえて一人の舎人の扮する疫鬼を追い払った。これに大寒疫気祓いの豆打ちが一緒になって、神社の節分祭の儀式として受け継がれている。

新宮神社・節分祭＝古式の追儺の儀では、「弓矢の儀」と「豆打ちの儀」が行われる。

「弓矢の儀」＝追儺所役2人が桃弓と3本の葦矢を持ち、1人が本殿下縁東側から東北に向け、他の一人は同西側から、各3本の葦矢を射て疫神（オニ）を追い祓う。漢字の鬼を「オニ」に充てているが、和語のオニとは観念が違う。

「豆打ちの儀」＝場所は弓矢と同じ場所で、まず本殿に向かい「福は内」となえて豆を打つこと2回、次に東西に「鬼は外」となへ豆を打つこと2回。今年も、伝統文化の体験学習として、あとむ幼稚園児が全員参列、神事をお手伝いしてくれます。十市保育園や十市小学校の児童が伝統文化の体験学習のために参加する年もあります。

寒明けの季節、冬から春へ、冬眠から目覚め全てのモノが活動を開始します。ハルの陰には災禍も忍び寄ってきます。ハルへの節目（節分）に見えぬ邪気を祓い、清らかな心ですこやかなハルを迎えましょう。

現在の神事は、数年前から子どもたちの生活時間にあわせて行っています。

執行日時＝平成19年2月2日（金）午前10時から

場 所＝南国市十市新宮山（十市保育所裏山）鎮坐

新宮神社 宮司・森 國 英 夫

〒783-0086 高知県南国市十市緑ヶ丘1丁目1701

電話＝088-865-5123 FAX＝088-865-5123

新宮神社HP URL=<http://www.amy.hi-ho.ne.jp/aicon-m/>